

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成23年10月22日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4676300173号
法人名	有限会社 すりい
事業所名	グループホーム ふれあい館
所在地	鹿児島県曾於市大隅町月野3486番地6 (電話) 099-482-5333
自己評価作成日	平成23年10月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・基本理念である「ゆったりと さりげなく 住み慣れた地域の中で あなたが なたらしく」の実践に心がけ、「利用者本位」の「利用者中心の介護」を目指しています。
- ・「認知症介護のプロ」を目指すことを目標とし、その為の人材育成やスキルアップ研修等においては、積極的に取り組む努力をしています。

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成23年10月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・茶畑や山々が広がり自然に囲まれた場所に位置し、開放感のある温かい雰囲気を感じさせる空間で過ごすことができ、また63号線沿いにあり地域の方々も行き来しやすい場所に設置されている。
- ・管理者の長年の福祉施設での経験を活かしながら、地域福祉への思いを理念に掲げ職員一丸となって取り組んでいる。また職員も個別方針として「信頼・協力・理解」を忘れず、日々、利用者に寄り添ったケアに邁進している。
- ・身体障害のある職員を交えて、職員間で支えあい理解し合いながら、利用者の思いに寄り添い密に考え話し合いながら支援している。また管理者と職員とも意見や要望を伝えやすく、相談しやすい環境であり、職員や利用者も表情豊かで一緒に生活している雰囲気が自然にうまれているグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	基本理念をわかりやすい言葉に置き換え、掲示しミーティングや申し送り等で、職員はお互い確認し、意識を高めるように日々、努力している。	家庭的な雰囲気の中でその人らしく過ごしてほしいという気持ちを理念に掲げ、常に管理者や職員で意識を高め合い、理念を共有しながら日々の支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流とまではいかないが、地域ネットワーク会議への参加、小学校行事への参加、訪問等の声かけなど、交流できる機会を増やせるように取り組んでいる	学習発表会への参加、養護学校や障害者施設の職場体験や学生を受け入れている。また、校区福祉ネットワークが校区社会福祉協議会で設立され、その会合などに地域の一員として参加し、様々な活動の相談、支援の依頼も行いながら地域交流に積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の方々から、認知症の相談や、福祉サービスの相談を受けた際は、相談に応じるようにしている。(介護サービスの説明や他施設の紹介等)		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進の方々や地域の民生委員の方々等から、積極的な意見を伺うことができる場となっており、職員の意識向上やサービス向上に取り組んでいる。	民生委員、社会福祉協議会、市役所、地域包括支援センター、地域住民、家族などの参加があり、定期的に行われ施設内の状況や行事計画、意見交換を行っている。また、施設職員も交互に参加することで様々な課題や意見の抽出が可能となり、職員の意識向上やサービス向上を意識し意義ある会議が行えるよう取り組んでいる。	

鹿児島県 グループホームふれあい館 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政担当者と、日頃から意見交換を行い、困難事例の解決や運営上の相談を行い、地域包括支援センターとの連携も図っている。	生活保護の受給者も入居しており、市役所や福祉事務所とも密に連携を図っている。また行政との会合にも積極的に参加され、情報収集や提供、電話連絡も随時行うことで緊急な対応も円滑に行えるなど、日々の連携、協力体制を意識して取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを作成し、申し送り時などに徹底して伝える努力をしている。又、目に見える拘束だけではなく、目に見えない拘束（言葉による指示・命令口調、出入り口の施錠）についても、日頃から意識した取り組みをしている。	身体拘束マニュアルは常日頃、目にみえる場所におき、職員間での身体拘束をしないケアへの意識を深めている。また日々の支援の中からも目に見える拘束だけでなく、目に見えない拘束についても意識し、利用者との信頼関係の構築を心がけながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関するマニュアルを作成し、日々の申し送り時など、全職員に伝える努力をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度自体の理解は、難しいが、状況に応じて、包括支援センターや福祉事務所等に相談、助言を頂きながら、対応するように心がけている。		

鹿児島県 グループホームふれあい館 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章と口頭で十分に説明を行い、利用者の思いを含め、御家族の理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時などに、自由に意見や要望を言えるような関係作りに努めており、意見・要望等は、申し送り時等に職員へ伝え、改善に取り組んでいる。	運営推進会議や行事、面会などの交流を通して意見や要望を聞き、また定期的な電話連絡にて個々の意見を確認できるよう工夫している。意見・要望などはミーティングにて職員間で話し合い、改善に取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、職員の意見や提案を聞けるような関係ができていく。研修参加や支援についての提案・要望等も出されている。また、個人の相談にも応じている。	日頃から管理者や職員が意見を提案しやすい環境づくりを心がけ、日々の中でも耳を傾けている。研修にも職員が交代で参加でき、研修費用や手当での支援もあるなど、職員の意見を反映した環境づくりがなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務の調整等、柔軟に対応している。		

鹿児島県 グループホームふれあい館 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修参加等の機会を設けている。また、報告書を活用して、ケアの向上に活かせるように取り組んでいる。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域で開催される研修会や認知症勉強会に参加しながら、交流に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談の段階から、本人との関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の段階から、家族との関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、入所を優先とせず、本人の現状を確認し、「今、何が必要か」を見極めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入所者に助けってもらったり、教えてもらったりする「頼り、頼られる」場面を作るようにしている。		

鹿児島県 グループホームふれあい館 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族に助けってもらったり、教えてもらったりする場面を作るようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れることなく、継続できるように支援している。友人の来訪についても支援している。	入居前からのなじみの美容室、商店、クリーニング店など職員と一緒にいき、なじみの方との会話を楽しめる関係性を継続して支援している。可能な限り、住み慣れた自宅訪問やお寺、墓参りも行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者の個性など、常に見極めながら、良好な関係を保ち、支え合えるように取り組んでいる		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等でサービス利用（契約）が終了しても、本人や家族の必要に応じて、次の生活場所の確保や担当者との引き継ぎ等関係を継続しながら、援助を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆっくりと傍に寄り添い、本人の思いや意向を、表情や行動等から、くみ取るように努力している。	日々の行動や会話の中で思いや意向を汲み取り支援している。表現の表出が困難な方に対しても、寄り添いながら利用者の思いを汲み取り、職員間でも情報共有しながら把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	得られた個人情報をもとにその人らしい暮らし方や、力の発揮に活かせるように取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所者一人一人の生活状況を把握しながら、ケアに活かせるように取り組んでいる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時や電話時に近況報告をしながら、家族の意見・考えを伺い、同意の下、作成している。1ヶ月ごとにモニタリングを行い、内容等を確認して、更新時や状態の変化に応じて、速やかに計画の見直しを行っている	日々のケアを通して利用者に寄り添った介護計画を作成している。ご家族とも密に連携をとり、理解を得た中で支援が行われている。また状態変化や今後の方向性を視野にいれた計画の作成や見直しも行われており、常に利用者本位の視点を大切にしている。	

鹿児島県 グループホームふれあい館 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録だけではなく、日々の申し送り等で、気づいた事などを話し合い、情報を共有し、実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの機能を最大限に生かせるように柔軟な支援（運動会への応援・家族旅行等）を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向を取り入れ、関係機関等と協力しながら、取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関もあり、定期的な往診を受けたり、必要時の検査等も受けられるように支援している。また、かかりつけ医との連携も継続できるように支援している。	協力医療機関や以前からのかかりつけ医でも継続して受診できる体制が図られている。緊急時や夜間対応も協力医療機関と密に連携がとれるよう日々の連携に努めている。また専門医や歯科診療とも協力体制が整っている。	

鹿児島県 グループホームふれあい館 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関により、毎月の往診、緊急時の受診等において、医療面・健康面の相談を日頃から行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>医療機関のMSW等と日頃から連携を図っており、そうした場面等に備えている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所の時点で重度化や終末期について基本的なことを話し合い理解を得るようにしている。その上で、状態の変化に応じて、対応を家族と共に考え、最後まで支援を行っている。</p>	<p>入居時から重度化、終末期について家族や利用者の思いをふまえた中で話し合い、一緒に検討し支援している。状態変化に応じて家族とも話し合いを繰り返して、最後まで安心して過ごしていただけるよう他病院、他施設や行政とも連携を図りながら支援している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救急蘇生法等の訓練を行っている。</p>		

鹿児島県 グループホームふれあい館 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域住民の参加を得て、年2回の防災訓練や避難訓練を行っている。また、災害時における物品の備えについても、取り組んでいる。</p>	<p>年2回の防災、避難訓練が実施されている。スプリンクラー設置も完了しヘルメットも各階に準備されている。また備蓄品もそろえ災害対策に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常に、人格の尊重とプライバシー確保の為に、一人一人の思いや希望を重視しながら、丁寧に対応している。	個人情報保護について玄関やリビングにも掲示されている。職員間で常に一人ひとりの利用者の立場にたち、尊重した声かけや対応を話し合いながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、入所者が思いや希望を表したりすることを大切に声かけを行っている。(選んでもらう場面をつくる、選ぶのを待つ等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の日課やスケジュールは決めず、入所者一人ひとりの生活に合わせた声かけやケアを行うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	理容の外出が困難な入所者には、近隣の理髪店の訪問を依頼して、なじみの空間での理容を行っている。要望があれば職員が行うこともある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り本人の持てる力を発揮してもらい、食材の下ごしらえや配膳・下膳等を職員と一緒にやっている。また、お願いすることで「頼られる喜び」を持つような声かけや支援を行っている。	台所とリビングが対面式で自由に出入りすることができ、食材の下ごしらえや準備、味付けなど個々の能力に合わせて、利用者や職員と頼られあう良い関係を保ち、様々な食事の楽しさを大切にしながら支援している。	

鹿児島県 グループホームふれあい館 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を作成し、1人ひとりの食事の状態を把握している。食事量の少ない方に対しては、医師へ報告して、対応を検討するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアチェック表にて対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で1人ひとりの排泄パターンをおおよそ把握して、トイレの案内やさりげない声かけをしながら支援をしている。また、本人のプライドを傷つけないように、細心の注意を払い、対応している。	排泄パターンを把握し、個々の排泄状況に合わせて声かけや誘導、見守りを行っている。また、尿取りパットなど本人に合わせて改良、移動方法の指導を行い、排泄の自立支援に向け取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成し、1人ひとりの排便の状況をおおよそ把握している。便秘傾向の方については、医師に報告し、場合によっては、内服で調整を行っている。		

鹿児島県 グループホームふれあい館 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的に日時や曜日を決めておらず、1人ひとりの希望に合わせて、入浴ができるように支援している。平均すると1日おきだが、毎日入ることも可能である	利用者の希望に合わせて、入浴を楽しむことができ、気持ちよく安心安全に入浴ができるよう声かけや会話を工夫しながら支援している。拒否があった際も時間をおき、利用者の思いに寄り添いながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝や起床は時間を決めず、一人ひとりのリズムに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬については、ファイルしてあり、変更等があった場合は、その都度、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが楽しみや出番が見い出せるような場面作りの支援を行っている。また「頼られる喜び」を感じられるように声かけや支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に添って、散歩や買い物など気軽に出かけられるように支援している。家族や本人の希望で、墓参りや葬儀への参列等への支援も行っている。	日中は施錠せず、敷地内も自由に散歩することもでき、飼い犬との触れ合いも楽しむことができる。買い物やドライブ、散歩など職員の付添いにて日常的な外出支援を行っている。希望があれば、冠婚葬祭への参加も職員が同席して参加するなど、家族や地域の方と連絡をとりながら外出支援を行っている。	

鹿児島県 グループホームふれあい館 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自分で金銭管理が困難な入所者の場合は事務所の管理依頼や、職員サイドでの管理を行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族や知人等の連絡等は歓迎し、連絡しやすい雰囲気作りに努めている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節ごとの草花を飾ったり、壁面を利用して、季節感を取り入れている。清潔な空間づくりへも取り組み、居心地よく過ごせるように努めている。</p>	<p>壁には季節を感じる飾り物があり、光が入り込む明るい空間の中にソファやテレビも角々に設置され、気ままに居心地よく過ごせる空間がつけられている。</p>	<p>今年になってハウスクリーニングを導入してはいるが、日々の身近な清掃活動を定期的実施していく取り組みが望まれる。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者同士で話をしたり、一人での時間も過ごせるようにソファの位置や、テーブルの場所等配慮を行っている。</p>		

鹿児島県 グループホームふれあい館 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅にて使い慣れた物、家族の写真、自分で作った物等をかざり、それぞれの空間を作りだしている。</p>	<p>仏壇やタンス、家族写真が飾られ、なじみあるものを身近に置き安心して過ごせる居室づくりができています。部屋の入口には手作りのネームプレートも飾られ、入所者の部屋として安心して過ごせる空間づくりにも配慮している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>本人のできる力、残された能力を活かせるような環境作りに取り組んでいる（物干しの高さ、箒など、目に付きやすい場所におく等）また、一人ひとりの状態を見極めて、状況に応じて工夫をしている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホームふれあい館 1ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホームふれあい館 1ユニット

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない